

事後評価（案）一覧表

資料1-2

〇ソフト分野

番号	領域	タイプ	研究名、概要 (成果報告レポートより引用) (詳細は別紙参照)	研究 代表者	委託額 (3カ年) (千円)	事後評価意見 (詳細は別紙参照)	参考意見 (詳細は別紙参照)	事後 評価 (案)
25-1	1	I	<p><b>研究名</b></p> <p>広域道路ネットワークの耐災害信頼性から見たリンクの脆弱度及び改良優先度の実用的評価手法の開発と適用性評価</p> <p><b>概要</b></p> <p>東日本大震災を踏まえて提案された「道路の防災機能評価手法(暫定案)」の実用性向上を念頭に、実務者の感覚と合致した改善評価手法の開発および適用可能性の検証を行った。具体的には、(1)実務者との意見交換から抽出した実務ニーズを踏まえて、暫定手法をベースに地域の実情を踏まえた新たな評価手法を構築し、(2)新たな評価手法の実務への適用可能性の検証ならびに評価手法の改訂に向けた試みに関する研究を行った。</p>	政策研究 大学院大学 教授 家田 仁	50,000	<p>全国の研究者、本省、地方整備局関係者を巻き込んで研究を実施した点は高く評価できる。道路の耐災害信頼性評価について、暫定手法の改善のための理論・システム構築を行っており、道路政策の改善に直接的に寄与するものと考えられることから、当初の目的に適った十分な研究成果が得られたものと評価する。</p>	<p>1. 全国各地域の道路行政担当者及び交通研究者を巻き込んで研究が遂行されたこと、そして成果がマニュアル化され、提案手法が道路行政の実務において本格的に運用されていることは、高く評価される。</p> <p>2. 政策評価に関する考え方と実務を属人的にしないために、ファインチューニング、例えば拠点ペアの選択に根拠を残すシステムとするなど、より適用性の高い行政マニュアルに向けて、今後も引き続き検討いただきたい。</p> <p>3. 理論的整合性と実務的経験整合性を両立させた方法論についても大きな成果なので、その点での成果も今後、学会に学術論文として発表する等して整理していただきたい。</p>	A
25-2	2	III	<p><b>研究名</b></p> <p>物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策についての研究開発</p> <p><b>概要</b></p> <p>物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策を立案することを実現するため、貨物車交通マネジメントの方法論を確立することを研究目的として、都市物流施策を評価するためのタイムウィンドウ付き配車配送計画モデル及びマルチエージェントモデルに関する研究開発。</p>	京大大学 大学院 教授 谷口 栄一	20,320	<p>環境負荷の低減に大きな影響がある貨物車を対象に、その行動をモデル化して分析しているが、本研究で開発した配車配送計画モデル及びマルチエージェントモデルの有用性や、配送実態とモデルによる最適経路の違いが生じる原因を具体的に示せておらず、成果の有効範囲、一般性の検証が必要である。研究全体として達成された成果に疑問があり、研究成果を道路政策の質の向上に活用することは難しいと考えられることから、研究成果は一部に留まったと評価する。</p>	<p>1. 物流政策におけるマルチエージェントモデルの活用に向けて、モデルの構造やパラメータ、最適配車配送モデルの土地利用パラメータ等の設定方法についての具体的な検討が望まれる。</p> <p>2. 本研究成果の有用性を明らかにするため、成果の活用シーンとして提案された貨物車交通マネジメント関係者による公民連携協議会における適用について、具体的な方法論や効果に関する今後のさらなる検討が期待される。</p> <p>3. 物流の利害関係者を巻き込んだマルチエージェントシミュレーションモデルを構築して、貨物車交通のマネジメントを行えるようにしたことは評価に値する。今後、利害関係者のタイムリーな意思決定のために動的シミュレーションシステムを構築することが期待される。</p>	C

25-3	6	I	研究名	事故発生位置情報を用いた事故分析総合システムの研究開発	東京大学 特任教授 山田 晴利	28,980	道路管理者からの要望に沿ったデータベースの構築、交通事故の要因分析に必要なGISデータの作成を行うとともに、丁寧な空間統計分析を行い、実務への利用可能性を示したことは有用であり、研究目的に適った十分な研究成果が得られたものと評価する。	<p>1.道路政策への活用には、事故データの継続的な入力が必要と考えられ、そのための方法を検討することが望まれる。</p> <p>2.事故要因分析では、道路要因、交通要因が明示的に説明変数に組み込まれておらず、結果をミスリードする危険性があることに注意して今後適用されることが望ましい。</p> <p>3.プローブデータと事故データの統合データベースについて、今後の検討方針が具体的に示されると望ましい。</p> <p>4.本研究は、事故分析のためのデータベースと分析システムを構築したことについて高く評価される。今後、個々の事故事例に着目した詳細な分析への発展を期待する。</p> <p>5.「普及」の点で課題とされていた警察関係への情報提供とともに、取締りなどのソフトパワーによる事故減少へと結びつけていただきたい。</p>	A
			概要	交通事故位置情報の品質管理、沿道の建物用途、土地利用、プローブデータ、天候等と連携した多角的、複合的な事故分析を任意の地点・地域で行えるようにするため、事故データの品質管理から分析までを実行できる総合的な事故分析システムを新たに開発することを目的とし、さらに事故発生場所の経度・緯度情報を使った事故分析を実施する研究開発。					

※ 事後評価の基準：A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった  
C：研究成果は一部に留まった D：研究成果があったとは言い難い

## ○ハード分野

番号	領域	タイプ	研究名、概要 (成果報告レポートより引用) (詳細は別紙参照)	研究 代表者	委託額 (3カ年) (千円)	事後評価意見 (詳細は別紙参照)	参考意見 (詳細は別紙参照)	事後 評価 (案)
25-4	4	II	<p>研究名</p> <p>道路橋示方書の改定を踏まえた性能設計概念に基づく設計照査手法についての研究開発—特に下部構造物を中心として</p> <p>概要</p> <p>今後予定されている道路橋示方書の改訂に向けて、道路橋の下部構造に対する性能設計の導入と合理的な部分係数の決定方法について検討を行い、具体的な手法を提案した。具体的には全国の地盤調査データを用いて解析を行うことにより地盤変形係数と杭基礎の水平地盤反力係数の新しい推定法を提案し、信頼性理論に基づいた抵抗係数の決定方法を提案した。また、設計実務者が自ら信頼性解析を行えるよう、例題に基づくマニュアルを作成した。</p>	新潟大学 准教授 大竹 雄	21,580	<p>地盤という不確実性の高い対象に対し、多くの既存データから道路橋示方書改定へ大きな方向性を与えている。性能設計の導入に向けた道路橋示方書改定のための基礎的資料を提示するという目的は達成されており、また成果の活用が十分期待できることから、当初の目的に適った十分な成果が得られたものと評価する。</p>	<p>1.本研究成果の道路橋示方書などへの反映にあたっては設計実務への影響を十分に考慮して対応することが必要である。</p> <p>2.本研究成果が活用されることにより構造物の設計が今後どのように変化していくのか、さらに建設・維持管理コストの縮減に関する議論などへの研究の発展を期待する。</p> <p>3.性能設計の導入・普及に貢献する成果が得られた。本研究で作成されたマニュアルが難解であることから、一般の実務者向けの分かり易いマニュアルが作成されることを期待する。</p>	A

※ 事後評価の基準：A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった  
C：研究成果は一部に留まった D：研究成果があったとは言い難い

